研究構想シート

学校名	浜田市立雲城小学校
氏名	竹田　佑季子

A　研究主題
好奇心をもち　他者とのかかわりを通して　課題解決に挑戦する子どもの育成

B　研究の目的
必然性のある対話の場を設定し、互いにかかわりあいながら学びを深めていく授業の実現をめざす。

C　子どもの実態
○発信することばかりで、相手の話を聞くことができなかったり聞く側も受け身になってしまったりする。
○対話に関しては、これまでの取組によって自分の考えを伝えようとする児童は増えている。しかし、分かりやすく説明する言葉が不足していたり考えを広げたり深めたりする対話になっていないかったりする課題がある。

【昨年度アンケート結果より】
○対話に対する良さを７～８割の子どもが感じている。
○話し合った後の気持ちも７割以上の児童がプラスの感情を抱いている。
●話合いが長くなったり自分の意見が言えなかったりして思考が混乱したり集中力がきれたりするというマイナス意見もある。
●高学年になると人間関係から対話が難しくくることがある。
●高学年になると多様な意見が出て、それらを関連付けたり相違点を見つけたりするような粘り強い思考や深い思考が必要となり、気持ちが続かない子どもがいるという実態がある。

E　手立て・内容（研究仮説）
１　児童が学びに対する意欲や対話の必然性を生み出すような単元計画を立てることで、児童一人ひとりが課題意識をもち、意欲的に学習に取り組むことができるだろう。（対話への主体的な参加）

２　学んだことを生かす活動を単元および、授業の終末に設ければ、児童が学びを深めることができるだろう。（学びへの深まり）

F　検証方法
１　対話によって学びを深める授業のために本校に合った知識構成型ジグソー法を取り入れ、児童の学びの変容を見とる。

２　アンケートを実施し、児童の対話や話合いに対する意識の変化を検証する。

G　研究計画
○別紙

D　めざす子どもの姿
【対話し、協働する子】

○低学年
自分の考えをもつ子
・自分の考えを伝えようとする子
・友達の話を聞く子
・まわりのものや友達の様子に気づき知ろうとする子
・友達と一緒にやってみる子
・友達と一緒に考え、動き出す子

○中学年
自分の考えに根拠をもつ子
・自分の考えをまとめ、相手にわかるように話す子
・友達の考えと自分の考えを比べながら聞く子
・みんなで話し合いながら目標に向かってチャレンジする子

○高学年
自分の考えを深める子
・自分の考えを深める子
・他者のこと考えて伝え方を工夫する子（図・絵・式・言葉）
・よりよい方法や考えを出し合って活動する子